

学校目標・経営方針

山梨県立韮崎工業高等学校長 高野 修

本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣を確立し、総合人間力の育成に努める
	2 基礎学力の定着を図り、生徒の進路実現に努める
	3 生徒会活動・部活動を通して豊かな人間性と逞しい身体の育成に努める
	4 社会的自立・職業的自立に向けた力を身に付けた、工業のスペシャリストを育成する

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(3月1日現在)			
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	基本的な生活習慣を確立し総合人間力を高める指導の充実	①教職員の情報の共有化に努め、遅刻を繰り返す生徒の原因究明を行い、継続的な指導に努める。	各月ごとの数的推移	・指導を受けた生徒の多くは「その場の雰囲気」で「軽い口で」のような発言しており、後先を考えずに行動に移してしまう生徒が多かった。 ・指導方針を「違反者を見つけ指導する形から未然防止」の方向へ転換を掲げていたがうまく機能していなかった部分がある。	B	・基本的な生活習慣を確立するため、遅刻等による遅刻の撲滅に努める。 ・学校と社会のルールを理解させ、規範意識の確立を図るため、ルールを自ら守ろうとする姿勢の育成に努める。 ・交通事故、違反「0」を目指し、バイク・自転車の安全教育と整備点検を充実させ、命の大切さやルール・マナーを遵守の指導に努める。 ・交通事故件数は減少傾向にあるが、骨折等の大けがを負った生徒もおり、さらなる注意が必要である。 ・工業科での7Sの徹底及び日々の清掃活動の徹底を行った結果、アンケートでは、約8割を超える生徒が肯定的な回答であった。
		②バイク・自転車安全運転教育・点検の充実と自転車の交通ルール、マナー違反の改善に努める。	実施結果の検証	・交通安全件数は減少傾向にあるが、骨折等の大けがを負った生徒もおり、さらなる注意が必要である。 ・工業科での7Sの徹底及び日々の清掃活動の徹底を行った結果、アンケートでは、約8割を超える生徒が肯定的な回答であった。		
		③7S活動の徹底、通学路のゴミ拾い、環境標語コンテスト等を実施し、環境美化意識及び愛校精神の涵養に努める。	アンケート及び実施結果の検証	・交通安全件数は減少傾向にあるが、骨折等の大けがを負った生徒もおり、さらなる注意が必要である。 ・工業科での7Sの徹底及び日々の清掃活動の徹底を行った結果、アンケートでは、約8割を超える生徒が肯定的な回答であった。		
2	基礎学力定着のための指導と個々の生徒の進路実現及び夢の実現にむけた指導	①わかる授業実現と評価方法の見直しを図りながら、生徒の学習意欲の向上に努める。	授業アンケートと授業観察	・アンケートでは、約87%の生徒が「先生方は、わかりやすい授業を工夫している」と回答している。今後も確かな学力の育成に向けて、授業改善に取り組む必要がある。	A	・確かな学力の育成には、やまなしスタンダードを活用し、生徒を主体とした授業の実施に向けた指導の工夫が必要である。 ・家庭学習の定着を図るため、各教科による評価基準や評価方法等の評価計画の改善、工夫に努める。 ・進路行事等については、企業や地域のニーズに対応できるよう努める。
		②基礎学力が不十分な生徒への補充的な課外学習等に努める。	基礎力テストの結果の検証	・アンケートでは、約86%の先生方が「補充的学習を行っている」と回答しているが、約半数の生徒は、家庭学習への取組は低調であると回答している。		
		③自己実現にむけて各種進路行事・活動に積極的に取り組ませるとともにコミュニケーション能力の育成を図る。	アンケート及び進路実績の検証	・進路に関わる行事は年々増加しているが、出口の確保は本校にとって最重要ポイントであり、試行錯誤の中で強化を図りたい。		
3	生徒会活動・部活動の活性化と活動を通して豊かな人間性と逞しい身体の育成	①生徒会活動を通しての自主自律の精神と道徳性の向上に努める。	アンケート及び活動実績の検証	・学園祭は、工業高校としての特色を前面に打ち出す方向で企画を取り入れ、全員参加型の運営ができた。また、広報活動の充実で集客数が増えた。特に、保護者・地域の方々への来客が増えた。	A	・生徒会活動を通して、自主自律の精神と道徳性の向上を図る。 ・生徒会活動にもっとの知識・技術・精神を活かし、創造力の伸長を図る。 ・部活動の推進に向け、主体的に取り組む生徒を増加させる必要がある。 ・工業高校らしい学園祭の充実を図るとともに、開かれた学園祭・全員参加型の学園祭を前面に打ち出す。
		②指導内容の工夫や生徒による主体的な活動を推進し、部活動の活性化を図る。	アンケート及び活動実績の検証	・レスリング部では、全国グレコ大会、福井国体で優勝者、全国総体等での入賞者を輩出した。また、文化部では、太鼓部2年連続、写真部、新聞委員会が全国総文祭出場を果たす活躍があった。		
		③地域に開かれた学園祭の企画と立案や広報活動に努め、積極的な取り組みを図る。	実施後アンケート結果	・16年目を迎えた企業実習は、実施協力企業の確保が大変ではあるが、64社から協力をいただき、事前の打合せを強化し、連携をとりながら実施することができた。		
4	高度な知識・技術を習得した工業のスペシャリストの育成	①企業実習や企業見学への事前指導を強化し、効果的なインターンシップの実施に努める。	実施後アンケート結果	・16年目を迎えた企業実習は、実施協力企業の確保が大変ではあるが、64社から協力をいただき、事前の打合せを強化し、連携をとりながら実施することができた。	A	・企業実習は、実施協力企業の開拓を一層進めていく。また、生徒には目的、企業調べなどの事前指導を強化し、キャリア教育の基礎的・汎用的能力を育成していく。 ・企業訪問は、企業との連携を深め、進路の開拓を進めたい。また、女子の就職先の確保のため、指導の強化や就職先の開拓に努める。 ・資格取得に向けて地域連携ものづくり事業を有効に活用する。特にプライズ作業にはマイスター派遣事業を大いに活用したい。
		②進路実現・資格取得に向けて地域連携ものづくり事業を有効に活用する。	取得実績の検証	・各学年が生涯キャリア教育の目標を定めながら実施することができた。また、ガイダンスや校外活動等の行事において、事前指導が徹底でき、効果的に活動が進められた。		
		③産業技術短期大学校等の外部機関と連携し、国家技能検定などの高度資格に挑戦させ合格者の増加を図る。	取得実績の検証	・資格取得では、12年連続1000件を突破するとともに、ジュニアマイスターゴール15名が認定され、その内3名が特別表彰を受賞した。また、ジュニアマイスター1パーに26名が認定された。		

学校関係者評価	
実施日(平成31年2月15日)	
評価	意見・要望等
4	・かつての校風が変わってきている。ここ数年ずっと良くなっている。今後も地域に根ざした高校であり続けてほしい。 ・熱意と力強さが伝わってくる学校運営だと感じます。 ・学校に行った時に、生徒達に会った時に、挨拶をしっかりするという事は先生方の指導がしっかりしているからです。先輩の先生が、新人の先生をいい方向に指導してください。 ・サンコーボラスの交差点に自治会として信号機の設置を要望した。また、西側の狭い道路を通勤に利用している車があるため、生徒への注意喚起をお願いする。 ・重点目標に「基本的な生活習慣の確立」「総合人間力の強化」とあるが、これは工業高校では重要なことである。
	・熱意と力強さが伝わってくる学校運営だと感じます。 ・授業参観をしたが、生徒の態度が良い。特に、3年生については就職等が決定した後に聞かずに、しっかり授業を受けていた。身だしなみも良く、実習服もきちんと着ていた。普段の先生方の取り組みがしっかりしていると感じた。 ・学校として学習等で成果を上げるためには、「どうすれば、どうなるのか」に尽きる。ここに力を入れてもらいたい。 ・高校としては、しっかり学校をアピールすることが大切である。ホームページを拝見したが、もう少し活動が見えるようにして欲しい。今日の様な発表会は是非掲載し、本校の活動を大勢の方々に見ていただくことは大切である。
	・熱意と力強さが伝わってくる学校運営だと感じます。 ・部活動は大会での戦績も大切だが、そのプロセスが大切である。また、道徳教育及び倫理観の育成の重要性を感じている。 ・生徒の能動性をどのようにして引き出していか、それには、生徒と教師の信頼関係を築いていくこと。教師側は、企業の協力体制を活用する。企業の声(企業はどのような生徒を望んでいるか等)を生徒に伝えることにより、生徒の能動性につながる。
	・熱意と力強さが伝わってくる学校運営だと感じます。 ・例年の就職状況を拝見し、先生方の指導の結果もあり、生徒も良く頑張っていること、評価したい。今後も地域に根ざした高校であり続けてほしい。 ・生徒が、企業実習等を通して「新しい学習観としての実践的取り組みを能動的に行っている様子が、課題研究発表会をみて、うかがい知ることができた。 ・課題研究発表会での発表の仕方として、実物を披露しながら説明してもらえると、もっとリアルに伝わると思っています。また、発表しなかった研究も紹介してほしい。 ・中学ー本校ー企業(OB)との連携を模索する。 ・就職率100%は素晴らしい。学校教育が充実している賜である。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

## 平成30年度版 改善計画

学校名：県立葦崎工業高等学校

No.	項目	現状と課題	H31年度に目指すべき状態	①H30年度に実施する内容 ②H31年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	（現状） 会議については、会議資料は事前配付を行うとともに、提案は要点のみ説明するなど効率化を図っている。 （課題） 会議内容に合った参集時間と終了時間を設定する必要がある。	会議を精選するとともに、会議時間の短縮（1時間以内）を図り、効率的な会議運営が行われている。	①事前打ち合わせを励行する。 ①会議資料の事前配付にて一読する時間を確保する。 ①参集時間の厳守と終了時刻の設定をする。  ②会議（委員会）の精選（20%）を検討する。 ②必要十分な構成員で効率よく効果的に実施し、実施回数や時間の削減を図るとともに、会議・研修会の目的や内容を明確にする。	
2	学校行事の負担軽減	（現状） 行事が多く、授業に影響してくることがある。 （課題） 各行事の準備に時間と労力を必要とする。	行事に優先順位を付け整理削減を行い、効果的な実施内容と実施回数を目指す。	①企画・運営マニュアル等を整備・改善し、誰もが引き継げる資料を作成する。  ②事後アンケートを分析するとともに、行事の目的や教育的効果を再検討し、行事の廃止、縮減等に取り組む。	
3	校内組織の見直し	（現状） 分掌の細分化は仕方ないが、複数配置により仕事が多岐化している。 （課題） 分掌が多く、複数の分掌に所属している。	限られた人員での適切な配置と業務分担により、効率よく業務を遂行している。	①分掌間で連携体制を深め、業務標準化及び協働性の強化を図る。  ②分掌人員の適正数を検討し、一人ひとりに責任を持たせるように配置する。	
4	業務の効率化	（現状） 共同作業体制が成り立っていない部分があり、一部の職員の退校時間が遅い。 （課題） 教員間の協働性を高めるとともに、定時退校の推進を図る。	行事等の見直しを続けるとともに、紙ベースの資料削減（現状20%減）を目指す。	①②教材等をデータで共有することで、教員間の協働性を高める。 ①②分掌業務のマニュアル化、電子データの共有などにより作業効率を高める。 ①②可能な限りメールによる文書等の送付を行うとともに、グループを活用する。	

5	部活動の負担軽減	<p>(現状) 複数配置であるが、休日等に複数で指導を行っている。</p> <p>(課題) 教職員のワークライフバランスの確保及び部活動完全休養日の奨励。</p>	顧問間で役割分担を行い、効率的な活動及び適切な休養日が設定されている。	<p>①月に「きずなの日」を2回設定するとともに、土日での完全休養日を一日以上目指す。</p> <p>②月に「きずなの日」を2回設定するとともに、土日での完全休養日を二日以上目指す。</p> <p>①②管理職は、四半期ごとに部活動指導状況について確認を行い、指導助言を行う。また、顧問間のワークシェアリングによる負担軽減を実施する。</p>	
6	地域人材の活用	<p>(現状) 技能検定の指導が大きな負担となっている。指導時間が年々増加している。</p> <p>(課題) 資格取得数、上級資格取得を争う傾向になりつつあり、放課後や休日等の資格指導が多くなり、負担が増えている。</p>	外部講師を活用し、資格取得を目指す生徒に対して、効率よく指導が行われている。職員間で協働性を高め、適切な業務分担が行われている。	<p>①旋盤、フライス盤の指導は技能士の人材を活用することにより、負担を軽減する。</p> <p>②技能士の指導に立ち会う職員の負担が大きいため、仕事を分担し平準化を図る。</p> <p>①②部活動やものづくり人材育成に関する地域人材の登用を目指す。</p>	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと。